

GK情報レポート

【2014年発行】

vol. 42

秋号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

1. GK の加工品
2. GK の丸棒について
3. 学術講演会「難燃性マグネシウム合金展伸材創製のための最新技術開発」について
4. 相場情報『2014 年第 4 四半期見通し』

皆様でご回覧下さい。

回覧印										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～41）用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. GKの加工品

権田金属工業ではブスバー、丸棒、メッキ材の他に金属加工品も取り扱っています。扱える品種は銅・黄銅以外にもアルミ、ステンレス、ニッケル等多岐に渡ります。寸法精度、数量などの条件により加工方法が変わりますので担当営業が最適な加工方法を提案し、お客様のご要望にお答えします。工場では熟練工が圧延機 鍛造プレス機 NC旋盤 マシニングセンター フライス盤等の設備・加工機を使いお客様の図面に沿った製品を高精度な仕上がりでご提供致します。今まで手掛けた製品としてはバックリングプレート、ブスバーを加工した配線材、鍛造設備を利用した大電流用接続端子等があります。



(サイズ:10x100 ブスバー 加工:曲げ穴あけ 重量:3645g)



(サイズ:5x25 ブスバー 加工:曲げ 重量:370g)

最近では素材だけでなく切断、曲げなどの加工を加えた形での納入を希望する御客様も増えています。

当社では社内加工の他にも長年培ってきた協力会社とのネットワークを最大限に活かし、曲げ・穴あけ加工、板金加工、メッキ加工まで、あらゆる加工品を取り扱います。



(素材:タピッチ 加工:型打鍛造 重量:674g)



(素材:無酸素銅条 加工:プレス/メッキ/チューブ 重量:40g)

掲載写真は一例です。素材メーカーである当社の素材から加工までの一貫生産と、協力会社の最新設備との組み合わせで、価格・精度などで競争力のある製品をご提供致します。

各担当者まで是非お問い合わせ下さい。

記者 吉田崇 浅野

2. GK 丸棒について

銅丸棒 (C1100BD-H/BF-F・C1020BD-H/BF-F)

当社の銅丸棒は 6Φ から製造し、C1100 材は 18Φ から 200Φ まで在庫販売をしております。200Φ 超のサイズでも棒形状で高品質のものを製造できるのが大きな特徴です。

GKの銅棒の製造方法と製造工程

直径 6Φ ~ 110Φ のサイズはダイスによる引抜

直径 115Φ 以上のサイズは鍛造後、旋盤加工

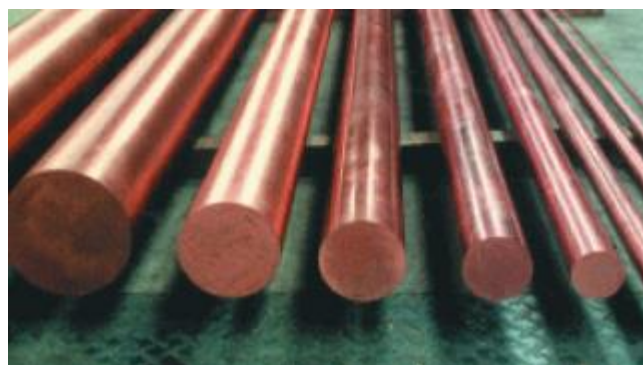


表 1 C1100BD-H/BF-F 在庫サイズ

18Φ × 4,000	36Φ × 4,000	70Φ × 4,000	130Φ × 長物
19Φ × 4,000	38Φ × 4,000	75Φ × 4,000	140Φ × 長物
20Φ × 4,000	40Φ × 4,000	80Φ × 4,000	150Φ × 長物
22Φ × 4,000	45Φ × 4,000	85Φ × 4,000	160Φ × 長物
25Φ × 4,000	48Φ × 4,000	90Φ × 4,000	180Φ × 長物
28Φ × 4,000	50Φ × 4,000	95Φ × 長物	200Φ × 長物
30Φ × 4,000	55Φ × 4,000	100Φ × 長物	—
32Φ × 4,000	60Φ × 4,000	110Φ × 長物	—
35Φ × 4,000	65Φ × 4,000	120Φ × 長物	—

黄銅丸棒 (C3604BD-F/BF-F・C3712BD-F/BF-F・C3771BD-F/BF-F・C4641BF-F・C4622BF-F・C6782BF-F)

黄銅丸棒は 50Φ から製造しております。在庫販売する品種は全て C3604 材です。銅丸棒と同様に 300Φ 超のサイズでも棒形状で高品質のものを製造できるのが大きな特徴です。また当社では快削黄銅丸棒 (C3604BD-F/BF-F) の他にも、鍛造用黄銅丸棒 (C3712BD-F/BF-F・C3771BD-F/BF-F)、ネーバル黄銅丸棒 (C4641BF-F/C4622BF-F)、高力黄銅丸棒 (C6782BF-F) などの各品種の製造・販売も行っています。

GKの黄銅丸棒の製造方法と製造工程

直径 50Φ～110Φのサイズはダイスによる引抜加工

直径 115Φ以上のサイズは鍛造後、旋盤加工

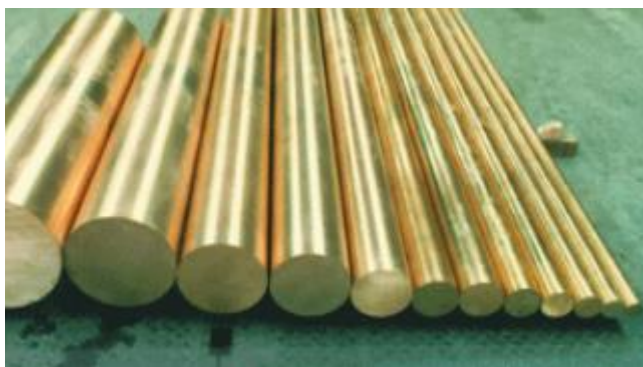


表 2 C3604BD-F/BF-F 在庫サイズ

50Φ×4,000	65Φ×4,000	90Φ×4,000	125Φ×長物	170Φ×長物	240Φ×長物
52Φ×4,000	68Φ×4,000	95Φ×長物	130Φ×長物	180Φ×長物	250Φ×長物
55Φ×4,000	70Φ×4,000	100Φ×長物	135Φ×長物	190Φ×長物	260Φ×長物
56Φ×4,000	72Φ×4,000	105Φ×長物	140Φ×長物	200Φ×長物	270Φ×長物
58Φ×4,000	75Φ×4,000	110Φ×長物	145Φ×長物	210Φ×長物	280Φ×長物
60Φ×4,000	80Φ×4,000	115Φ×長物	150Φ×長物	220Φ×長物	300Φ×長物
62Φ×4,000	85Φ×4,000	120Φ×長物	160Φ×長物	230Φ×長物	—

低カドミウム黄銅丸棒(C3604BD-F/BF-F・C3771BD-F/BF-F ※CN34-75)

低カドミウム黄銅丸棒は 50Φから製造し、200Φまで在庫販売しております。在庫販売する品種は C3604 で、カドミウム含有量は 75ppm 以下です。低カドミウム黄銅丸棒も 110Φまでは引抜、115Φ超のサイズは鍛造後に旋盤加工による仕上げですので、寸法精度が良い上に真円度が高く、曲がり等もほとんどありません。在庫販売ではありませんが、200Φ超のサイズの製造も可能です。

表 3 C3604BD-F/BF-F 低カドミウム在庫サイズ

50Φ×4,000	75Φ×4,000	100Φ×長物	130Φ×長物	180Φ×長物
55Φ×4,000	80Φ×4,000	105Φ×長物	140Φ×長物	190Φ×長物
60Φ×4,000	85Φ×4,000	110Φ×長物	150Φ×長物	200Φ×長物
65Φ×4,000	90Φ×4,000	115Φ×長物	160Φ×長物	—
70Φ×4,000	95Φ×4,000	120Φ×長物	170Φ×長物	—

GK 丸棒(銅丸棒・黄銅丸棒)の特徴のまとめ

引抜丸棒(～110Φ)について

110Φまで冷間引抜出来るのは国内で当社のみ!!

真円度が非常に高く、曲がりもほとんどありません。

太丸棒 (115Φ～) について

①鍛造後に切削する製法なので真円度が高く曲がりも少ない!!

お客様からは手直しせず、そのまま加工できると非常に高い評価を得ております。
お客様での材料コスト削減や加工時の作業時間短縮などに寄与しております。

②他社品の押出棒とは公差に圧倒的な差が!!

他社品の太物丸棒は押出棒が大半を占めますが、当社の 115Φ以上の丸棒は鍛造後、外径旋盤で仕上げます。ちなみに 115Φ以上の押出棒の外径公差は、C1100・C1020 で±2%・C3604 で±1%ですが、当社の鍛造丸棒は±0.5mm を目標に仕上げしております。初めて当社の太丸棒を使用されたお客様が、当社の製品公差や精度の高さに驚かれ、そのまま他社品の押出棒から当社の鍛造丸棒に切り替えた事例が複数あります!!

当社製品に関する情報は、下記の当社ホームページからご参照下さい。

http://gondametal.co.jp/product_shin/

記者 高橋

3. 学術講演会「難燃性マグネシウム合金展伸材創製のための最新技術開発」について

2014年11月15日(土)から16日(日)東京工業大学大岡山キャンパスにおいて、軽金属学会第127回秋期大会「難燃性マグネシウム合金展伸材創製のための最新技術開発」についての講演会が開催されます。

現在、幅広い業界で注目を浴びている難燃性マグネシウムの最新の技術開発の状況に関する88の講演セッションが予定されています。建材・高速車両・航空機・宇宙開発関連などの用途では難燃性マグネシウムの実用化が急務となっています。

この講演会では当社からも技術者4名が4つテーマで発表をいたします。

ご多忙中とは存じますが、ご興味がおありの皆様におかれましては難燃性マグネシウムの最新の技術動向を知るまたとない機会かと思われます。

なお、大会の聴講には参加費用として1万円がかかります。一般社団法人軽金属学

会のホームページから事前申し込みが出来ます (<http://www.jilm.or.jp/>)。
また、当日の現地での支払いも可能です。

難燃性マグネシウム展伸材 AZX612



難燃性マグネシウムに関する情報は当社ホームページを参照願います。

<http://gondametal.co.jp/company/outline/>

記者 田中

4. 相場情報 『2014年第4四半期見通し』

1. 電気銅建値推移

2014年7月・・・760円スタート(7月平均770.0円)

2014年8月・・・780円スタート(8月平均768.5円)

2014年9月・・・770円スタート(9月平均782.0円)

2014年10月・・・760円スタート

2. LME在庫状況及び需給状況

LME指定倉庫在庫は、年初36万トン台だったが、夏場に向けて減少傾向となった。在庫減少理由は世界景気が回復傾向にあり、実需が強かったという見方がある様だ。

7月～9月の3ヶ月間は、大きな増減は無く、ほぼ15万トン前後で推移した。

国内大手の銅精錬メーカーは、2014年の世界の銅地金需給を4万トンの供給過剰(生産2,196万トン・消費2,192万トン)との見通しを発表した。

ちなみに銅供給のピークは2016年がピークとなる可能性も同時に指摘している。

3. 為替の見通し

米国経済はシェールガス革命の追い風も受けて好調な状態を維持している。個人消費も非常に旺盛。世界的に見ても米国経済のみが回復基調が継続している中、多少の調整局面はあるものの、当面円安ドル高傾向が進みそう。

ただウクライナ・中東エリアの地政学リスク(特定地域が抱える政治的・軍事的・社会的な緊張感の高まりが、地理的な位置関係により、その特定地域、関連地域の経済に不透明感を持たせること)の再燃、中国などの景気減速懸念の再燃等のリスク回避で一時的にドル安となる可能性もある。

4. 相場の見通しと今後

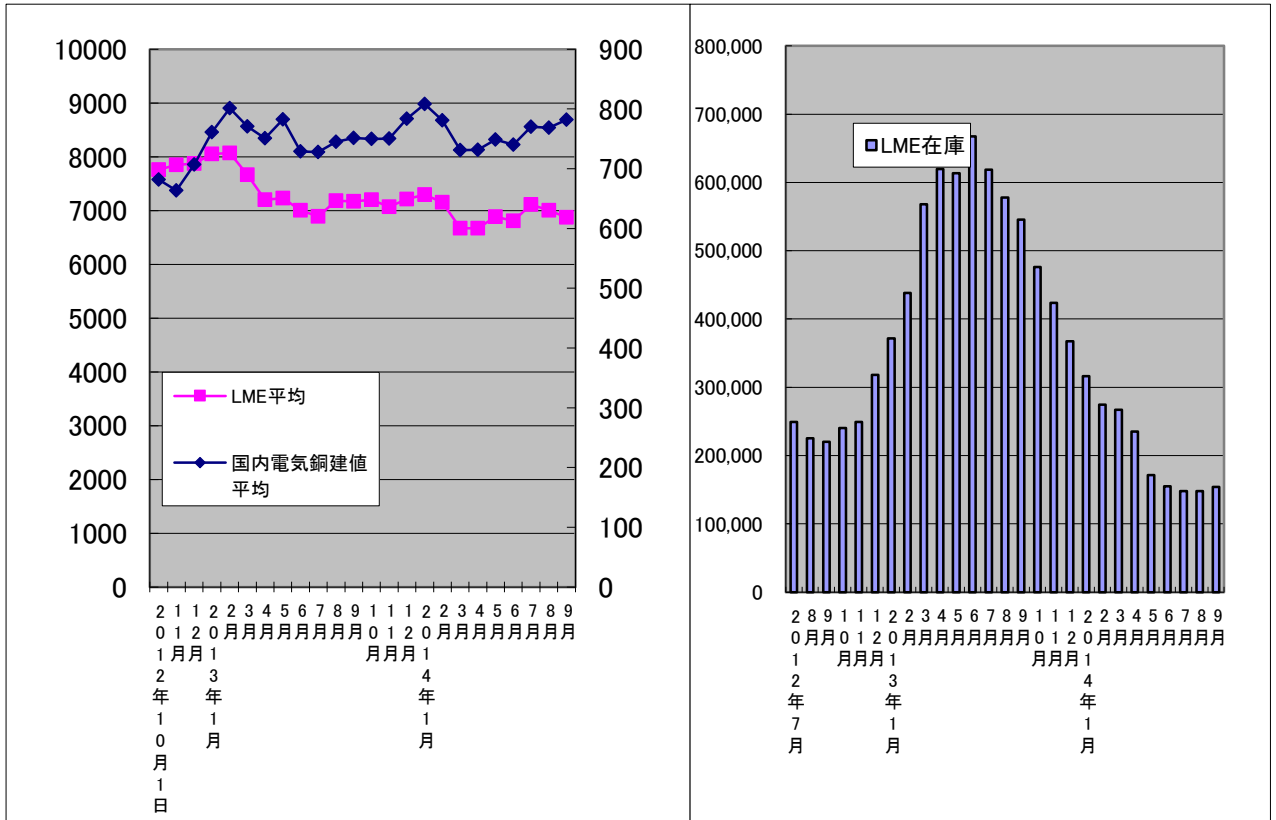
LME銅相場は、わかりやすい相場材料が見当たらず、当面の大きな変動はなさそう。銅の最大消費国である中国の需要は、一時期ほどの勢いは見られないものの、インフラ整備需要や銅線需要が堅調に推移する見込みであり、米国経済も回復基調を維持している。

しかし先進国や新興国では減速、鈍化傾向という状況。

供給面でも増産情報等に乏しく、大幅な相場の変動は考えにくいことから、緩やかな下落傾向と予測する。

短期予測(1M) LME \$ 6,500~6,900/トン 為替 107~111 円/\$
銅建値 740~800 円/kg

長期予測(3M) LME \$ 6,400~7,000/トン 為替 107~115 円/\$
銅建値 730~840 円/kg



記者 日吉